

## 73. 谷晴夫の自己開示です – 2 (キャラクター)

2019年5月26日

前回のエッセイに引き続き谷晴夫の性格を自己理解の一つの分析事例としてご笑覧ください。

心理学におけるパーソナリティとは「人格」や「性格」のことであり、キャラクターは「性格」のことを指します。同じ意味にとらえがちですが、微妙に異なります。

パーソナリティとは「後天的な性格」(生まれ出てから形成される性格)のことを指し、同時にその「その人らしさ」や「人柄」といった、その人特有の一貫した行動傾向の背景にある「人格」といわれるものを指します。

キャラクターとは「生得的な性格」(先天的にもっている気質・性質)のことを指し、キャラクターは個人の種(核)で一生変わることはないが、パーソナリティはその人の養育環境、親の躰の仕方、出会う人、知識やさまざまな経験によって形成され、変化していくとされています。

今回は、キャラクターについて書きます。

### 2. キャラクター (先天的な性格)

自分のパーソナリティを知るのには「エゴグラム」という評価尺度でしたが、キャラクターを知るのには「エニアグラム」という診断があります。ご存じでしょうか。エニアグラムは、人は9つのタイプのどれかに入るとしています。

以下、簡単に「エニアグラム」の紹介をします。日本エニアグラム学会のホームページからの引用です。



エニアグラムという言葉はギリシャ語で、エニアは「9」、グラムは「図」を意味します。この図がどこで生まれたのか、歴史ははっきりとわかっていませんが、『宇宙万物の本質を表す象徴』であり、図の起源は古代ギリシャ、あるいは古代エジプトにまでさかのぼるとも言われています。エニアグラムの性格論は、1960年代に作られたもので、1970年代からアメリカで精神医学や心理学の研究者が注目し、研究を重ね、理論を発展させ続けているもので、新しい人間学、心理学として世界各国に広がっています。

このように、エニアグラムは古い根に育った新しい木であるということが出来ます。古代からの知恵に新しい心理学が導入されています。また、人の心に深く語りかけてくるので受け入れやすく、日本でも人間関係改善のために学ぶ人が増え、教育関係者、弁護士、医師、心理療法士のほか、大手企業でも研修に導入するところが出ています。

エニアグラムは、人の性格を9つの類型でとらえています(性格類型論)

エニアグラムの9つの性格タイプは、それぞれかなり異なった特徴をもっています。しかし、大切なことは、エニアグラムのタイプは、どのタイプが優れているか、劣っているか、または良い悪いなどの区別はないということです。

すべてのタイプの一人ひとりが、かけがえのない大切な存在です。そのためタイプを呼ぶときは、ただ数字で呼んでいます。また、タイプの特徴を一言で表すニックネームは、エニアグラムの研究者によって異なっています。ここではドン・リチャード・リソ氏が名づけたニックネームとともに、各タイプの特徴をご紹介します。



タイプ1 (改革する人)	タイプ2 (人を助ける人)	タイプ3 (達成する人)
タイプ4 (個性的な人)	タイプ5 (調べる人)	タイプ6 (忠実な人)
タイプ7 (熱中する人)	タイプ8 (挑戦する人)	タイプ9 (平和をもたらす人)

エニアグラムの目的は、自己理解と他者理解になります。

- 自分を理解すること（自分の中の何を伸ばし何を改めるべきかを知る）
- 他人を理解すること（他人とよりよい関係をもつこと）

さて、私「谷晴夫」のエニアグラムは「タイプ3の達成する人」です。

### タイプ3<ニックネーム：達成する人>



このタイプの人には、成功することが最も好きで、成功のために手段を選びません。何時もはっきりした目的、目標をもっていて、その達成のためにはどうしたらよいかを考えています。成功、達成を願っています。

その反面として、失敗を極度に恐れるので、成功がおぼつかないものは極力避けようとし、自分の周りにはいる人たちのもつ才能をパツと見抜き、皆を励まし、目標の達成へと導く、優れたリーダー、ボスになって、組織力を発揮します。成功することが大事ですから、時間を有効に使い、あらゆることを効率的にしようとし、一見するとタイプ1に近い感じがしますが、自分の可能性を開花させ、開発させたい傾向が強く現れます。積極的に世の中に出て行きます。

これまたよく合っているように思います。成功することが最も好きで、成功するために手段を選びません。成功、達成を願っています。など本当に笑えるくらい合っていますね。

実は、このエニアグラムは結構と奥が深く理解するには時間がかかる代物です。私はエニアグラムと知り合って5年ほど経ちます。最初の頃は、エニアグラムに書かれている文章を見て腹が立ったものです。腹が立ったというか、自分自身が受け入れられなかったのです。エニアグラムは本質をついてきます。エニアグラムは、受け止めることができたのですが、エニアグラムは直球できますね。しかし、自己洞察するにはとても向いている診断だと私は思います。

以下の文章は、他タイプの人には、納得感はないと思います。それは9つのタイプそれぞれだからです。谷に興味がある方は読んで笑ってください。自己分析をするには、このような自分に向き合う事ができる診断が必要です。

#### ◆ タイプ3の「よい状態の時」と「悪い状態の時」（9つの性格：鈴木秀子著作から）

- 「よい状態の時」 楽天的、自信たっぷり、勤勉、有能、自力でものを進める、精力的、实际的
- 「悪い状態の時」 信頼できない、自己陶酔的、尊大、うぬぼれが強い、浅薄、意地が悪い

#### ※谷の自己評価

この「悪い状態の時」のことは、エー！何これ自分じゃないと思う私がありました。が、自己洞察していくことで、「成功や達成を求める」私の本質は、悩みごとや問題をかかえていて、落ち込んだり、いらいらしたりする自分もいます。その時の私が出ている気持ちや行動だと思える私が出てきました。自分をみつめる私があります。

◆ タイプ3の「囚われ」（9つの性格：鈴木秀子著作から）

➤ 目標達成しか考えない

タイプ3には、人生においてもっとも重要なのは、目的を達成し、成功を収めることだという「囚われ」がある。目的を達成することだけが、自分の価値を証明することだと信じており、人生の価値をすべて“成功”という尺度で測ってしまう。そのため、成功しそうな仕事には情熱を燃やすが、失敗しそうで、注目を集めない仕事は避ける傾向がある。タイプ3にとって成功とは、他人の評価を得て、よいイメージを形成することだから、それを得るためには自分の生活さえも犠牲にする。自分のスタッフも成功のための道具と考える傾向があり、優秀な人材しか眼中にない。

※谷の自己評価

この文章を読んだ時、嫌悪感を感じた私がありました。こんな酷い私でないと・・・。  
しかし、数年間、時間をかけて自己洞察していくと「実は、いるんですよ私の中に！」  
この話はまんざら間違っていないと受け入れはじめた私があります。

◆ タイプ3の陥りやすい「落とし穴」（9つの性格：鈴木秀子著作から）

➤ 効率

日本やアメリカの大企業の管理職に多いタイプ3は、高い目標を掲げ、効率よく成功をものにしていく。タイプ3の落とし穴は、効率的であることに、脅迫観念を抱くことだ。彼らが効率性を追求する根底には、高い評価を得たいという願望があるが、これが高じると、成功を勝ち取るために手段を選ばなくなり、家庭も自分の健康も顧みず仕事をし、ワーカホリックになってしまう。その一方で、激しい競争心に囚われ、時間に追われ、精神的には、常に疲労した状態を感じるようになる。タイプ3は、成績とか、業績とか、人の評価ではなく、自分の内面によって自分を満たす道筋を確保しなければならない。人の評価や会社での地位ではなく、自分自身の中に自己評価の基準を持つべきなのだ。その評価基準には、成功や効率性ではなく、さまざまな人間的な要素が加味される。その自己評価によっての自分のすばらしさを自覚する努力が、タイプ3を落とし穴から守ってくれる。

※谷の自己評価 この文章にある激しい競争心に囚われ、時間に追われ、精神的には、常に疲労した状態を感じるようになる。本当によく当たっています。この「落とし穴」である“効率”に対しては、その自己評価によっての自分のすばらしさを自覚する努力が、タイプ3を落とし穴から守ってくれる。とある事に自分自身に納得できる自分ができてきています。

以上、エゴグラムとエニアグラムを基に谷晴夫を少し皆様に開示してきました。人の事は、そんなに興味がないかと思います。ましてや谷晴夫なんて・・・ですね。

さて、なぜ今回、このようにして私の自己開示をしてきたかと言いますと、他人を知るためには、自分を知らなければならない（自己理解）ですね、自分を知り自分の動向、クセを知った中で、他人を知る（他者理解）です。

自分の価値観で、他人を凶るることには難しさがあります。本当にそう思いました。自分を知ると、違った視点で他人を見ることができ、また関わる事ができる。不思議なものですね。